

第5回日中若手化学者フォーラム

第5回日中若手化学者フォーラムを振り返って

日本大学船橋キャンパスで開催された日本化学会第95春季年会において、第5回日中若手化学者フォーラムが開催された。このフォーラムは、2009年に締結した『日中国際協力協定』に基づき、第1回を2010年アモイ（中国化学会年会）、第2回2012年中国化学会年会（四川大学）、第3回2013年93年会（名大）、第4回2014年中国化学会年会（北京大学）で開催してきた。

今回は、“Molecular Activation Directed toward Straightforward Organic Synthesis”をテーマとして、日本側から山下 誠（中央大理工）、鷹谷 絢（東工大院理）、Laureen Ilies（東大院理）、山口 潤一郎（名大院理）、鷹巢 守（阪大院工）の6名、中国側から、Aiwen Lei（武漢大）、Qian Zhang（東北師範大）、Ning Jiao（北京大）、Shang-Dong Yang（蘭州大）、Guangxin Liang（南開大）の6名、合計10名の若手研究者がそれぞれ約30分の英語による講演を行った。また、日本側は中尾 佳亮（京大院工）が、中国側は



Zhang-Jie Shi（北京大）が取りまとめ役を務め、それぞれ開会および閉会の挨拶を行った。

日本化学会からは、中條 善樹筆頭副会長（当時）、茶谷 直人副会長、川島 信之常務理事らも出席した。

いずれの講演者も、有機合成化学および有機金属化学分野で世界的に活躍している若手研究者であることから、非常に高水準の研究発表・研究討議が行われた。特に、近年極めて注目され、世界中の研究者が取り組んでいる「不活性結合および不活性小分子の活性化・直截的変換」がキーワードとなり、これを実現するための新しい遷移金属錯体の化学から、不活性な炭素-水素、炭素-炭素、炭素-炭素結合官能基化および二酸化炭素固定化を実現する触媒反応の開発、これらを応用した複雑な天然物の高効率全合成までカバーする内容が多く聴衆を集めた。

フォーラム中、招待講演者以外の聴衆からも活発に質問があり、講演後の休み時間においても、活発に議論される様子

が頻繁に見受けられた。日本での開催でありながら、講演者以外にも多くの中国人研究者が聴衆として参加していたことが印象的であった。

フォーラム終了後の夜には、参加者全員での会食、二次会が行われ、夜遅くまで大いに親交が深められた。

本研究分野は、「お家芸」とも言われるほどに日本が世界を先導してきたが、近年は、中国人若手研究者の台頭が著しい。そのような時期柄、本フォーラムにおいて、当該分野において将来有望な両国の若手研究者が密に交流できたことは、おのおのの将来の研究活動において大きな財産となり、今後の両国化学会における有機合成化学および有機金属化学研究の発展に大きく資するものと期待できる。

開催にあたりご尽力をいただいた化学事務局をはじめ、関係者の皆様に深謝したい。

〔中尾佳亮（京都大学大学院工学研究科）〕

© 2015 The Chemical Society of Japan

